

3 学長が大分市に「科学館」および「知的創造の拠点」の設置を提言

大分大学長 羽野忠氏、日本文理大学長 松原典宏氏、大分工業高等専門学校長 大城桂作氏は、1月29日、広瀬大分県知事、および釘宮大分市長に、「科学館」および「知的創造活動の拠点」の設置を要請する「提言」を、提出することとなりました。

提言の要旨は、別紙の通りであります。

提出の日時は、1月29日(月)8:45より大分市長へ、9:40より県知事へ、3学長が揃って出向く予定であります。

現在「科学館」のない大分県・大分市の状況を、全国比較で見ると、

40万人以上の44都市で「科学館」がないのは4市(横須賀・西宮・福山・大分)で、しかも隣接市の科学館が利用できないのは大分市のみ、県内に「科学館」を持たないのは、大分・高知・沖縄の3県のみ、科学技術の巡回展は、大分を素通りする、

といった状況にあります。

一般に「科学館」については、

コストが掛かること、

低利用率の例があること、

成果が評価しにくいこと、

実際に「科学館」を経験した人が少なく、理解が浅いこと

等が指摘されることがあります。

しかし、これからの知的競争社会を考えると、科学技術を中心とする「人材育成」および「知的創造活動」の強化がキーファクターであることは明らかであります。

科学技術がますます高度になるなかで、科学技術教育は、書物だけでできるものではなく、見えないものを見えるように工夫された実験や、非日常の体験を可能にする仕掛けを準備して、驚きや感動を与えることが不可欠であります。

また、子ども達だけでなく、社会人も、「科学館」を利用して、科学技術について学び続け、理解を進める必要があります。

さらに、「知的創造活動」は、産学官連携や、異業種交流などの活動で展開されておりますが、基本はまず、意欲ある企業人、大学人の「出会い」であり、そのための場所(センター)や情報を提供して、活動を支援することが必要であります。

したがって、県民全体に期待される「科学館」および「知的創造支援施設」の設置は、大分市単独の事業ではなく、大分県・大分市の共同の事業として、時間と英知をかけて、しっかりした取り組みを期待したいのであります。大学高専も支援を惜しみません。

(ここでいう「科学館」は、単独テーマのもの 例えば水族館 ではなく、科学技術の基礎となる総合的な知識を提供できるものをいいます。)

連絡先:

(提言全般およびこれまでのいきさつについて)

ヒューマン・ネットワーク・リサーチ(コンサルタント)代表
川辺 正行

(「科学館」の説明について)

「大分に青少年科学館を作る会」

富成 一郎

提 言 要 旨

大分に「科学館」の設置を

平成19年(2007)1月

大分大学長	羽野 忠
日本文理大学長	松原 典宏
大分工業高等専門学校長	大城 桂作

1. 提言の趣旨

我が国は「科学技術創造立国」を国是としており、地域社会の持続的発展のためには、知的創造活動と人材育成が必須です。私たち大学や高専もその中心的機関として人材育成に取り組んでいますが、特に最近の科学技術の進歩は目覚しく、青少年の科学技術教育もこれに相応する高度なものが要求されます。しかし、本県には、その様な科学技術教育をサポートするための施設がまだ整備されておりません。出来るだけ早い時期に、知的創造力を育む「科学館」および「知的創造活動の拠点」を整備することにより、子どもから大人まで科学や技術を楽しみ、知的創造力を育む風土が醸成され、次世代を担う、優れた人材が育つとともに、地域社会に大きな活力が生まれることが期待されます。

2. 基本コンセプト

- (1) 未来志向であること (略)
- (2) 知的コアの形成 (略)

3. 今の大分に求められるもの～「人材育成」・「知的創造」

- (1) 青少年育成の支援 (略)
- (2) 社会人教育の支援 (略)
- (3) 知的創造活動の支援 (略)

4. 計画に取り組む姿勢

.....(略).....何よりも大切なことは、この施設が、大分市はもちろん大分県全体の「知的コア」となる、枢要な施設であるということです。したがって、大分市単独の事業ではなく、大分県と大分市が共同で取り組むべきと考えます。また、120万人の大分県民の期待に応えうるものとするよう、多くの叡智と意欲を集めるべきでしょう。

5. おわりに

私たちは、「知的コア」を具現する施設として、また多様な人たちに感動を与え未来へ向けての知的人材の育成を支援する施設として、県都大分市に「科学館」および「知的創造活動の拠点」の設置を提言します。

(なお、全文のコピーは、1月29日の提言提出直後に、報道各社に配布いたします。)